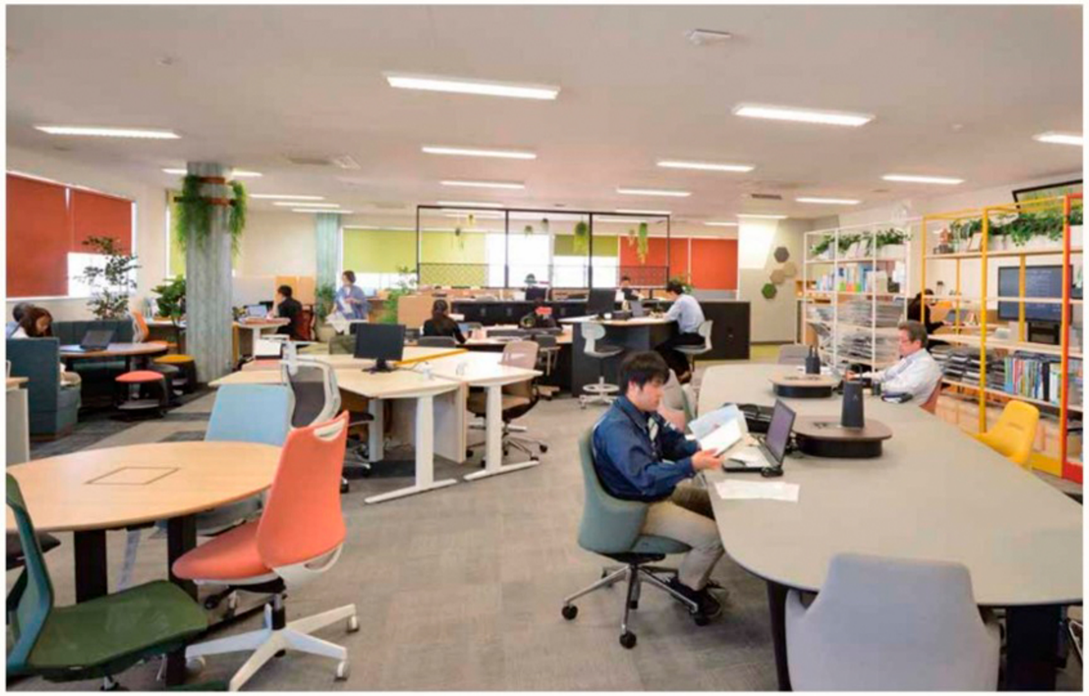
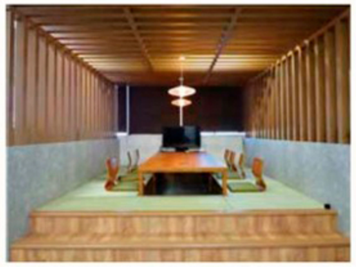
WORKINGSCENERY

はたらく景色
鹿児島
KAGOSHIMA

株式会社久永は、創業百周年を迎えるにあたって新たに「SDGs経営」を発表し、時代に合わせた会社へと変貌を遂げています。代表取締役社長の久永修平さんにその内容について話を聞きました。

SDGsで
持続可能な
組織と人財を育み
百年先の土台づくり





株式会社久永

時代とともにモノからコトへ

皆さんはSDGsをどのようにお考えですか。人類が直面しているさまざまな課題解決に向けて、多くの人や企業が自分たちにできる取り組みを行っています。株式会社久永の久永修平代表取締役社長もその考えに賛同し、持続可能な社会を目指す一人です。同社は竹のものさしの製造から始まり、秤や巻尺など物をはかる機器を製造する会社として土台を築きました。やがて、テクノロジーの進化とともに、製造会社からOA機器や計測器などを販売する会社へと転身し、現在はDXを軸に建設現場やオフィス環境、ビジネス空間ソリューションに取り組むコンサルティング会社へと進化しています。モノの販売からコトの提供へ、ビジネススタイルを転換させるにあたって同社は、新たな戦略を発表しました。それが基本理念を軸にした「SDGs経営」です。

SDGs経営でイノベーションを

なぜSDGsを経営に取り入れようと考えたのでしょうか。久永社長は「2019年に創業百周年を迎えるにあたって、次の百年に向けた経営戦略を模索する中でSDGsをうまく取り入れたら持続可能な会社づくりができるのではないかと考えました」と語ります。気になる「SDGs経営」の中身は、次の4つを基本理念に掲げています。一つ目は人財育成と社員の健康、次に環境配慮の事業活動、三つ目に価値ある製品・サービス、最後に社会貢献とイノベーションです。基本理念に合わせ人事の評価基準や事業計画、会社の職場環境や労働環境までがらりと変えました。

以前は売上や販売台数など数字ありきの目標だけだったのに対し、人財育成や勤務時間短縮を新たな評価基準に加えました。社内からは収益低下や職場環境の変化を懸念する声があがりましたが、5年間かけて制度改革を徹底してきた結果、営業時間は短縮したにもかかわらず売上は伸び続け、改革の成果が目に見える形で表れています。とりわけ人財育成と社員の健康に力を入れ、階層別研修、自己啓発勉強会の導入など、教育体制や資格取得の支援体制を充実させました。「求められる物を売るのではなくお客さまの課題を見つけ、解決できるコンサルティング集団として成長できた」と久永社長は言います。時代に合わせて進化を遂げる株式会社久永。これからも持続可能な企業を目指し、さらなるイノベーションに取り組んでいきます。

MEMO

鹿児島銀行
高見馬場支店
黒岩 宏威

非常に先見性があり、自社のことだけではなく、業界や地域のことも考えた経営に感銘を受けています。SDGsへの理解も深く、当行とのポジティブ・インパクト・ファイナンス（PIF※）の契約にあたっては、第三者機関からもSDGs経営が高く評価されています。今後も久永社長のビジョンに対していろいろな側面からお手伝いできたらと考えています。

※企業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクトを包括的に分析・評価し、当該活動の継続的な支援を目的とした融資

株式会社久永

1919（大正8）年創業し、建設DX事業（測量計測機器・システムの販売・レンタル・保守）、ビジネスDX事業（PC・周辺機器・ソフトウエアの販売・保守）、ビジネス空間事業（ビジネス空間のデザイン・提案、什器販売・保守）を柱にコンサルティング型の提案を展開している。

本社/鹿児島県鹿児島市東開町5-11　Tel:099-210-0555　HP：https://kk-hisanaga.co.jp

HPはこちら